

SSH 全国生徒研究発表会に参加して

- ◇期 日 令和5年8月9日(水)・10日(木)
- ◇場 所 神戸国際展示場(兵庫県神戸市)
- ◇参加者 3年理数科学科数学班4名
- ◇引率者 國松先生

全国に218ある SSH 指定校の生徒が神戸の地に集まり、数学情報、物理、化学、生物 A、生物 B、地学の6つの分野に分かれて、それぞれの学校の代表班が自分たちの研究をポスターで発表した。私も本校の代表として参加し、2年生の時からSS 発展探究の授業で続けている「富山市の電力網とグラフ理論 ～安全性と効率性～」の研究を発表し、全国から来た生徒



と活発に議論し、アドバイスをいただいた。研究内容についての質問だけでなく、「この手法を使ったらもっと面白くなるよ」といった全国大会ならではの高度なアドバイスもいただき、自分たちの研究を深めることができた。他の学校の研究を見て感じたことは、どの研究も同じ高校生とは思えないほどレベルが高いということだ。AI、プログラミング、シミュレーションといった高度な情報技術、実験装置を使った研究が多くみられた。また、どの発表者からも自分の研究に対する熱意が強く感じられた。例えば、恐竜の恥骨を研究していたある人は、「私は恐竜の恥骨が大好きで、そのすばらしさを伝えに今日ここに来たのです！そしてできるならこれからも恥骨を追い続けたいと思っています！」と熱く語っていた。1つのことをこれだけ深く突き詰められるのかと驚くとともに、尊敬の念を抱いた。

最終日には、ポスター発表での審査で6つの分野それぞれから選ばれた代表校6校が全体発表を行った。プログラミングや新有機化合物の合成といった大学並みの高度な研究に刺激を受けるとともに、大学へ進学してからの研究が楽しみになった。一方で、一番面白かったのは身近な現象をとことん突き詰めた研究だ。例えば、ある植物の葉に水滴を落としたりしたところ、水をはじいたという気づきから、その植物の表面の構造を詳しく調べていった研究からは、小さな気づきや疑問が大きな研究となる、研究の楽しさを改めて感じる事ができた。

この機会に受けた刺激を大切に、大学や職場での研究でも、ここで得たことを存分に発揮したいと思う。